

72歳男性。生来健康。特記すべき既往症なし。

血尿が出現し、病院を受診したところ、膀胱がんの診断を受けた。手術のため全身状態の精査を行ったところ、左上葉に腫瘤が見つかり、肺がんと診断された。

肺がん、膀胱がんそれぞれ手術(平成X年6月10日;左肺上葉切除術、平成X年7月25日;経尿道的腫瘍切除術)が行われ、病理組織検査の結果、肺がんは扁平上皮癌、膀胱がんは移行上皮癌であった。

手術後も経過観察を行っていたが、一年半後に肺に再発巣がみられ、再発巣の増大に伴い身体が衰弱し、初診の約2年後に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」をどのように記載したらよいでしょうか。

死亡の原因	(ア) 直接死因	原発性左肺上葉扁平上皮癌	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約2年
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
	直接には死因に関連しないが1療の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	膀胱移行上皮癌		約2年
手術	1無 2有	部位及び主要所見 左肺上葉切除術 経尿道的腫瘍切除術	手術年月日 昭和X年6月10日 昭和X年7月25日	
解剖	1無 2有	主要所見		
死因の種類	1病死及び自然死	外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()		
◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況				

死亡の原因	(ア) 直接死因	肺癌	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	不詳
	(イ) (ア)の原因	膀胱癌		不詳
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
	直接には死因に関連しないが1療の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
手術	1無 2有	部位及び主要所見 左肺上葉切除術 経尿道的腫瘍切除術	手術年月日 昭和X年6月10日 昭和X年7月25日	
解剖	1無 2有	主要所見		
死因の種類	1病死及び自然死	外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()		
◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況				

問題文

72歳男性。生来健康。特記すべき既往症なし。

血尿が出現し、病院を受診したところ、膀胱がんの診断を受けた。手術のため全身状態の精査を行ったところ、左上葉に腫瘤が見つかり、肺がんと診断された。

肺がん、膀胱がんそれぞれ手術（平成X年6月10日；左肺上葉切除術、平成X年7月25日；経尿道的腫瘍切除術）が行われ、病理組織検査の結果、肺がんは扁平上皮癌、膀胱がんは移行上皮癌であった。

手術後も経過観察を行っていたが、1年半後に肺に再発巣がみられ、再発巣の増大に伴い身体が衰弱し、初診の約2年後に死亡した。この場合、死亡診断書の「死亡の原因」をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

本文から、いわゆる重複がんの事例で、死因は肺の扁平上皮癌の切除後の再発と考えられます。死因は、「左肺上葉扁平上皮癌」として、術式等も記載してください（伝聞情報をふまえても可）。また、精度の高い正確なデータの収集のためにも分かる範囲で部位・組織型なども併せて記載をお願いします。

選択肢

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	原発性左肺上葉扁平上皮癌	発病（発症）又は受傷から死亡までの期間	約2年
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
手術	1 無	部位及び主要所見 左肺上葉切除術 経尿道的腫瘍切除術	手術年月日	昭和X年6月10日 昭和X年7月25日
	2 有	主要所見		
死亡の種類	1 死及び自然死			
	2 外因死	不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害 } 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 } 12 不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()		

正解

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	肺癌	発病（発症）又は受傷から死亡までの期間	不詳
	(イ) (ア)の原因	膀胱癌		不詳
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
手術	1 無	部位及び主要所見 左肺上葉切除術 経尿道的腫瘍切除術	手術年月日	昭和X年6月10日 昭和X年7月25日
	2 有	主要所見		
死亡の種類	1 死及び自然死			
	2 外因死	不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火傷による傷害 } 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 } 12 不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()		

64歳男性。平成X年12月6日午前1時頃、〇〇県△△市の自宅で火災が発生した。家屋の2部屋を焼き鎮火後、火元の隣の部屋から、発見された。

発見場所の部屋はそれほど焼けていない。遺体に大きな損傷はなく、熱による損傷(火傷)もみられなかった。死斑は鮮紅色、血液を採取し、一酸化炭素ヘモグロビン飽和度を測定したところ、83.2%であった(致死濃度:60%以上)。法医解剖では諸臓器が鮮紅色を呈し、気管内に煤の付着がみられた。

死体の所見、身体所見等から、一酸化炭素中毒による死亡と判断された。また、その後の捜査で、ストーブの火の不始末が火災の原因と判断された。

この場合、死体検案書の記載は、どのようにしたらよいでしょうか。

死亡の原因	(ア) 直接死因	一酸化炭素中毒	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	短時間
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例:1年、3か月、5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因			
I	◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください			
	◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください			
II	◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください			
	直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
手術	①無 ②有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
解剖	①無 ②有	主要所見 諸臓器は鮮紅色、気管内に煤の付着。 血液から高濃度の一酸化炭素ヘモグロビンを検出。		
死因の種類	1病死及び自然死			
	外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死			
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	昭和 X 年 12月 6 日 午後 1時 頃分	傷害が発生したところ	〇〇 都道府県 △△ 市区町村
	傷害が発生したところの種類	①居 ②工場及び建築現場 ③道路 ④その他 ()		
◆広域又は確定情報の場合でも書いてください	手段及び状況 自宅の火災にまきこまれたもの。			

死亡の原因	(ア) 直接死因	一酸化炭素中毒	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	短時間
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例:1年、3か月、5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因			
I	◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください			
	◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください			
II	◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください			
	直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
手術	①無 ②有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
解剖	①無 ②有	主要所見 諸臓器は鮮紅色、気管内に煤の付着。 血液から高濃度の一酸化炭素ヘモグロビンを検出。		
死因の種類	1病死及び自然死			
	外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死			
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	昭和 X 年 12月 6 日 午後 1時 頃分	傷害が発生したところ	〇〇 都道府県 △△ 市区町村
	傷害が発生したところの種類	①居 ②工場及び建築現場 ③道路 ④その他 ()		
◆広域又は確定情報の場合でも書いてください	手段及び状況 自宅の火災にまきこまれたもの。			

問題文

64歳男性。平成X年12月6日午前1時頃、〇〇県△△市の自宅で火災が発生した。家屋の2部屋を焼き鎮火後、火元の隣の部屋から、発見された。

発見場所の部屋はそれほど焼けていない。遺体に大きな損傷はなく、熱による損傷(火傷)もみられなかった。死斑は鮮紅色、血液を採取し、一酸化炭素ヘモグロビン飽和度を測定したところ、83.2%であった(致死濃度:60%以上)。法医学解剖では諸臓器が鮮紅色を呈し、気管内に煤の付着がみられた。

死体の所見、身体所見等から、一酸化炭素中毒による死亡と判断された。また、その後の捜査で、ストーブの火の不始末が火災の原因と判断された。
この場合、死体検案書の記載は、どのようにしたらよいでしょうか。

解説

本文から、死因は家屋火災による一酸化炭素中毒と考えられます。直接死因は一酸化炭素中毒ですが、死因の種類は火災に起因するものなので、「5.煙・火災及び火焰による傷害」となります。
火災であることは外因死の追加事項に記入いただき、その起こった場所や状況についても、分かる範囲で状況等を詳細に記載いただくようお願いします。

選択肢

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	一酸化炭素中毒	短時間
	(イ) (ア)の原因		発病(発症)又は受傷から死亡までの期間
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例)1年3か月、5時間20分)
	(エ) (ウ)の原因		
手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	② 1無	③ 有	主要所見 諸臓器は鮮紅色、気管内に煤の付着。 血液から高濃度の一酸化炭素ヘモグロビンを検出。
死因の種類	1病死及び自然死	2交通事故	3転倒・転落
	4溺水	5煙、火災及び火焰による傷害	6窒息
外因死の追加事項	7中毒	8その他	9自殺
	10他殺	11その他及び不詳の外因	12不詳の死
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	〇〇 昭和 X 年 12 月 6 日 〇〇 午後 1 時 頃分	傷害が発生したところ
	傷害が発生したところの種類	① 居 2 工場及び建築現場	3 道路 4 その他 ()
手段及び状況 自宅の火災にまきこまれたもの。			

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	一酸化炭素中毒	短時間
	(イ) (ア)の原因		発病(発症)又は受傷から死亡までの期間
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例)1年3か月、5時間20分)
	(エ) (ウ)の原因		
手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	② 1無	③ 有	主要所見 諸臓器は鮮紅色、気管内に煤の付着。 血液から高濃度の一酸化炭素ヘモグロビンを検出。
死因の種類	1病死及び自然死	2交通事故	3転倒・転落
	4溺水	5煙、火災及び火焰による傷害	6窒息
外因死の追加事項	7中毒	8その他	9自殺
	10他殺	11その他及び不詳の外因	12不詳の死
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	〇〇 昭和 X 年 12 月 6 日 〇〇 午後 1 時 頃分	傷害が発生したところ
	傷害が発生したところの種類	① 居 2 工場及び建築現場	3 道路 4 その他 ()
手段及び状況 自宅の火災にまきこまれたもの。			

正解

42歳男性。平成X年9月16日、午後2時頃、〇〇県△△市のゴルフ場でプレー中に雷雨となり、雨宿りをしていたところ、落雷があり、直後に倒れているのを発見された。

救急隊の到着時、心肺停止状態で、病院に搬送されたが死亡が確認された。死後CT検査も施行されたが、特に有意な所見は得られなかった。死体検案の際に、皮膚にいわゆる「電紋」が確認された。

死体の所見、身体所見等から、落雷による死亡と判断された。
この場合、死体検案書の「死亡の原因」をどのように記載したらよいでしょうか。

死亡の原因	(ア) 直接死因	雷撃症	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	短時間
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例：1年3か月、5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因			
◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の観点で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の観点で書いてください	手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	解剖	① 2有	主要所見	
死因の種類	1病死及び自然死	不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 ⑧その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成 昭和 X年 6月 10日 午前 ⑨ 2時 頃分	傷害が発生したところ 〇〇 郡 〇〇 区 △△ 市 〇〇 町	
◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 ④その他(ゴルフ場)	手段及び状況	ゴルフ場でプレー中、落雷に遭ったという。

死亡の原因	(ア) 直接死因	落雷	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	短時間
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例：1年3か月、5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因			
◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の観点で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の観点で書いてください	手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	解剖	① 2有	主要所見	
死因の種類	1病死及び自然死	不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 ⑧その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ 〇〇 市 〇〇 区 〇〇 町	
◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	手段及び状況	

問題文

42歳男性。平成X年9月16日、午後2時頃、〇〇県△△市のゴルフ場でプレー中に雷雨となり、雨宿りをしていたところ、落雷があり、直後に倒れているのを発見された。

救急隊の到着時、心肺停止状態で、病院に搬送されたが死亡が確認された。死後CT検査も施行されたが、特に有意な所見は得られなかった。死体検案の際に、皮膚にいわゆる「電紋」が確認された。

死体の所見、身体所見等から、落雷による死亡と判断された。
この場合、死体検案書の「死亡の原因」をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

本文から、死因は落雷による「雷撃症」と考えられました。死因欄の記載は、状況としては「落雷」ですが、傷病名での記載になりますので、「雷撃症」、死因の種類は「8.その他の外因死」となります。

また、外因死の追加事項につきましても、分かる範囲で状況等について詳細な記載が必要です。

選択肢

正解

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	雷撃症		短時間
	(イ) (ア)の原因			発病(発症)又は受傷から死亡までの期間
	(ウ) (イ)の原因			◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例：1年3か月、5時間20分)
	(エ) (ウ)の原因			
(14)	Ⅰ	◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください		
	Ⅱ	◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください。ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	※欄には死因に関連しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	
(15)	手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日
	解剖	① 2有	主要所見	
(16)	死因の種類	1病死及び自然死 外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 不慮の外因死 { 6窒息 7中毒 ⑧その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 } 12不詳の死		
	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成 昭和 X年 6月 10日 午前・午後 2時 頃分	傷害が発生したところ	都道府市区町村 都 区 町村
手段及び状況 ゴルフ場でプレー中、落雷に遭ったという。				

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	落雷		短時間
	(イ) (ア)の原因			発病(発症)又は受傷から死亡までの期間
	(ウ) (イ)の原因			◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。(例：1年3か月、5時間20分)
	(エ) (ウ)の原因			
(14)	Ⅰ	◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください		
	Ⅱ	◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください。ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	※欄には死因に関連しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	
(15)	手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日
	解剖	① 2有	主要所見	
(16)	死因の種類	1病死及び自然死 外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 不慮の外因死 { 6窒息 7中毒 ⑧その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 } 12不詳の死		
	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村 市 区 町村
手段及び状況				

52歳男性。〇〇県△△市。通行量の少ない道路脇に駐車中の車内で死亡しているのを発見された。窓ガラスは目張りされ、「毒ガス危険、近づくな」との張り紙があった。車内には、洗面器に入った硫黄臭のする泥状のものが残されており、入浴剤とトイレ洗剤の空き容器も見つかった。また、所持品のカバンから遺書が見つかった。

遺体の全身は暗緑色を呈していた。死体の所見、身体所見等から、死亡日時は、平成X年3月20日午後4時頃、死因は硫化水素中毒と判断された。
 この場合、死体検案書の死因、死因の種類等は、どのようにしたらよいでしょうか。

(14)	死亡の原因	(ア) 直接死因	硫化水素中毒	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	短時間	
	◆1欄、目録ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた病病名を医学的因果関係の順で書いてください ◆1欄の病病名の記載は各欄つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順で書いてください	(イ) (ア)の原因				
		(ウ) (イ)の原因			◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年、3か月、5時間20分)	
		(エ) (ウ)の原因				
手術	① 2有	部位及び主要所見		手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日	
(15)	死因の種類	1病死及び自然死	外因死			
		2交通事故	3転倒・転落	4溺水	5煙、火災及び火焔による傷害	
(16)	外因死の追加事項	6窒息	7中毒	8その他	9自殺	
		10他殺	11その他及び不詳の外因	12不詳の死		
◆法検又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき	昭和 X 年 3 月 20 日 午前 午後 4 時 頃分	傷害が発生したところ	〇〇 郡 △△ 市 区 町村		
	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 ④ その他 (自動車内)				
手段及び状況 道路脇に駐車中の車内で硫化水素を発生させて死亡していたという。						

(14)	死亡の原因	(ア) 直接死因	硫化水素中毒	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	短時間	
	◆1欄、目録ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた病病名を医学的因果関係の順で書いてください ◆1欄の病病名の記載は各欄つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順で書いてください	(イ) (ア)の原因				
		(ウ) (イ)の原因			◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年、3か月、5時間20分)	
		(エ) (ウ)の原因				
(15)	死因の種類	1病死及び自然死	外因死			
		2交通事故	3転倒・転落	4溺水	5煙、火災及び火焔による傷害	
(16)	外因死の追加事項	6窒息	7中毒	8その他	9自殺	
		10他殺	11その他及び不詳の外因	12不詳の死		
◆法検又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき	昭和 X 年 3 月 20 日 午前 午後 4 時 頃分	傷害が発生したところ	〇〇 郡 △△ 市 区 町村		
	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 ④ その他 (自動車内)				
手段及び状況 道路脇に駐車中の車内で、死亡しているのを発見された。						

問題文

52歳男性。〇〇県△△市。通行量の少ない道路脇に駐車中の車内で死亡しているのを発見された。窓ガラスは目張りされ、「毒ガス危険、近づくな」との張り紙があった。車内には、洗面器に入った硫黄臭のする泥状のものが残されており、入浴剤とトイレ洗剤の空き容器も見つかった。また、所持品のカバンから遺書が見つかった。

遺体の全身は暗緑色を呈していた。死体の所見、身体所見等から、死亡日時は、平成X年3月20日午後4時頃、死因は硫化水素中毒と判断された。
この場合、死体検案書の死因、死因の種類等は、どのようにしたらよいでしょうか。

解説

本文から、死因は硫化水素中毒と考えられます。直接死因は硫化水素によるものですが、自殺の手段として用いているので、死因の種類は「9.自殺」となります。
外因死の追加事項には、その起こった場所や状況についても、分かる範囲で状況等を詳細に記載します。

選択肢

正解

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	硫化水素中毒	短時間
	(イ) (ア) の原因		発病(発症)又は受傷から死亡までの期間
	(ウ) (イ) の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)
	(エ) (ウ) の原因		
手続	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日
	② 2有	主要所見	昭和 年 月 日
死因の種類	1病死及び自然死	不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 ⑨自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死	
	12不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	昭和 X年 3月 20日 午前(午後) 4時 頃分	傷害が発生したところ
	傷害が発生したところの種別	1住居 2工場及び建築現場 3道路 ④その他(自動車内)	〇〇 都道府県 △△ 市区町村
◆伝票又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況 道路脇に駐車中の車内で硫化水素を発生させて死亡していたという。			

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	硫化水素中毒	短時間
	(イ) (ア) の原因		発病(発症)又は受傷から死亡までの期間
	(ウ) (イ) の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)
	(エ) (ウ) の原因		
手続	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日
	② 2有	主要所見	昭和 年 月 日
死因の種類	1病死及び自然死	不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死	
	12不詳の死		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	昭和 X年 3月 20日 午前(午後) 4時 頃分	傷害が発生したところ
	傷害が発生したところの種別	1住居 2工場及び建築現場 3道路 ④その他(自動車内)	〇〇 都道府県 △△ 市区町村
◆伝票又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況 道路脇に駐車中の車内で、死亡しているのを発見された。			

47歳女性。平成X年3月16日、午後2時頃、〇〇県△△市の自宅室内で死亡しているのを発見された。数年前からうつ病にて、通院・投薬治療を受けている。

室内のゴミ箱から大量の三環系抗うつ薬の空き包装が発見された。死体検案では、明らかな損傷等はなく、死後画像検査(CT)にて、胃内に高吸収を示す沈渣が多量みられた。尿の薬物簡易検査で三環系抗うつ薬が陽性であった。

死体の所見、身体所見等から、薬物の過剰摂取による死亡と判断された。死体現象から死亡時刻は3月16日、午前2時頃、薬物服用はその少し前と考えられた。警察の捜査で、意図して摂取したか、誤って大量に服薬したか判然としない。

この場合、死体検案書の「死亡の原因」等の記載をどのようにしたらよいでしょうか。

死亡の原因	(ア) 直接死因	三環系抗うつ薬中毒(推定)	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	短時間
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年、3か月、5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因			
◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	目	直接には死因に関連しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等		
	手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日
◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	解剖	①無 2有	主要所見	
	死因の種類	1病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } その他及び不詳の外因死 { 6窒息 7中毒 8その他 } 12不詳の死 { 9自殺 10他殺 ⑪その他及び不詳の外因死 }		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	○平成 X年 3月 16日 ○午前 午後 2時 頃 分	傷害が発生したところ	○ ○ 都道府県 △△市 区 郡 町村
	◆信頼又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種類	①居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()	
手段及び状況 自宅室内で死亡していた。三環系抗うつ薬を多量に摂取したと思われる。				

死亡の原因	(ア) 直接死因	薬物中毒(推定)	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	短時間
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年、3か月、5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因			
◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	目	直接には死因に関連しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等		
	手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日
◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	解剖	①無 2有	主要所見	
	死因の種類	1病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } その他及び不詳の外因死 { 6窒息 7中毒 8その他 } 12不詳の死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 }		
外因死の追加事項	傷害が発生したとき	○平成 X年 3月 16日 ○午前 午後 2時 頃 分	傷害が発生したところ	○ ○ 都道府県 △△市 区 郡 町村
	◆信頼又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種類	①居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()	
手段及び状況 自宅室内で死亡していた。				

問題文

47歳女性。平成X年3月16日、午後2時頃、〇〇県△△市の自宅室内で死亡しているのを発見された。数年前からうつ病にて、通院・投薬治療を受けている。

室内のゴミ箱から大量の三環系抗うつ薬の空き包装が発見された。死体検案では、明らかな損傷等はなく、死後画像検査(CT)にて、胃内に高吸収を示す沈渣が多量みられた。尿の薬物簡易検査で三環系抗うつ薬が陽性であった。

死体の所見、身体所見等から、薬物の過剰摂取による死亡と判断された。死体検案から死亡時刻は3月16日、午前2時頃、薬物服用はその少し前と考えられた。警察の捜査で、意図して摂取したか、誤って大量に服薬したか判然としない。この場合、死体検案書の「死亡の原因」等の記載をどのようにしたらよいでしょうか。

解説

本文から、死因は三環系抗うつ薬による「中毒死」と推定されます。死因欄の記載は、薬品名が分かるようなら、「三環系抗うつ薬中毒(推定)」、あるいは、外因死の追加事項に薬品名、化学物質名を分かる範囲で記載します。自殺か不慮の事故かが不明な場合、死因の種類は「11.その他及び不詳の外因死」を選択します。

外因死の追加事項は、分かる範囲で状況等を詳細に記載してください。

選択肢

正解

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	三環系抗うつ薬中毒(推定)	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	短時間
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
	備考欄	◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。 ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順で書いてください。 ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにししてください。 ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順で書いてください。		
(14)	手術	① 2有 部位及び主要所見	手術年月日	平成 昭和 年 月 日
	解剖	① 2有 主要所見		
(15)	死因の種類	1 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 } その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 ① 11 その他及び不詳の外因死 } 12 不詳の死		
	外因死の追加事項	傷害が発生したとき ① 昭和 X 年 3 月 16 日 ② 午後 2 時 頃 分 傷害が発生したところの種別 ① 居 2 工場及び 3 道路 4 その他 () 傷害が発生したところ 〇〇 都道 区 市 町 村 ① △△ 市 区 部 町 村 ◆伝票又は確定情報の場合でも書いてください。		
(16)	手段及び状況	自宅室内で死亡していた。三環系抗うつ薬を多量に摂取したと思われる。		

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	薬物中毒(推定)	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	短時間
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因			
	(エ) (ウ)の原因			
	備考欄	◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。 (例：1年3か月、5時間20分)		
(14)	手術	① 2有 部位及び主要所見	手術年月日	平成 昭和 年 月 日
	解剖	① 2有 主要所見		
(15)	死因の種類	1 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 ② 7 中毒 8 その他 } その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因死 } 12 不詳の死		
	外因死の追加事項	傷害が発生したとき ① 昭和 X 年 3 月 16 日 ② 午後 2 時 頃 分 傷害が発生したところの種別 ① 居 2 工場及び 3 道路 4 その他 () 傷害が発生したところ 〇〇 都道 区 市 町 村 ① △△ 市 区 部 町 村 ◆伝票又は確定情報の場合でも書いてください。		
(16)	手段及び状況	自宅室内で死亡していた。		

92歳男性。生来健康。既往歴としては、73歳のときに胃がんを手術。

数ヶ月前から体力が低下し、あまり外出しなくなった。2週間ほど前から起き上がれなくなり、同居家族が世話をしていたが、食事摂取も低下してきたため、病院を受診、入院した。

顕著な症状はなく、入院後の検査では、特に異常も発見されなかったが、徐々に衰弱し、一昨日からは意識の状態が低下、昨日夜からは末梢循環不良のため腋窩温が低下していた。本日朝、死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

(14)	死亡の原因	(ア) 直接死因	低体温	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。 (例:1年、3か月、5時間20分)	不詳
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因			
		Ⅱ	直接には死因に関与しないが、1欄の疾病経過に影響を及ぼした疾病名等		
(15)	死因の種類	手術	① 有 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日 昭和 年 月 日
		解剖	① 有 2有	主要所見	
(16)	死因の種類	① 死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死			
		外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()		
		◆法医又は確定情報の場合でも書いてください	手段及び状況		

(14)	死亡の原因	(ア) 直接死因	老衰	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください。 (例:1年、3か月、5時間20分)	約2週間 (不詳も可)
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因			
		Ⅱ	直接には死因に関与しないが、1欄の疾病経過に影響を及ぼした疾病名等		
(15)	死因の種類	手術	① 有 2有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日 昭和 年 月 日
		解剖	① 有 2有	主要所見	
(16)	死因の種類	① 死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死			
		外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()		
		◆法医又は確定情報の場合でも書いてください	手段及び状況		

問題文

92歳男性。生来健康。既往歴としては、73歳のときに胃がんを手術。

数ヶ月前から体力が低下し、あまり外出しなくなった。2週間ほど前から起き上がれなくなり、同居家族が世話をしていたが、食事摂取も低下してきたため、病院を受診、入院した。

顕著な症状はなく、入院後の検査では、特に異常も発見されなかったが、徐々に衰弱し、一昨日からは意識の状態が低下、昨日夜からは末梢循環不良のため腋窩温が低下していた。本日朝、死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

解説

本文からは、死因は老衰であると推測されます。

死亡直前には、顕著な低体温がみられたとのことですが、これは終末状態でみられたものと思われ、環境要因による低体温(いわゆる「凍死」とは異なります。ですから、「死因の種類」も「1.病死および自然死」を選択されていると思います。

終末状態の「低体温」を死因に選択することは好ましくありませんので、高齢者で他に記載すべき原因がない場合は、「老衰」の記載が適切です。

選択肢

1

死亡の原因	(ア) 直接死因	低体温	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	不詳
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因		●年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因			
◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の観点で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにししてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の観点で書いてください	Ⅰ	部位及び主要所見	手術年月日	平成 昭和 年 月 日
	Ⅱ	主要所見		
(15) 死因の種類	① 死及び自然死	不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因		
	② 外因死	12 不詳の死		
(16) 外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
	◆伝票又は確定情報の場合でも書いてください	手段及び状況		

2

死亡の原因	(ア) 直接死因	老衰	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約2週間 (不詳も可)
	(イ) (ア)の原因			
	(ウ) (イ)の原因		●年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因			
◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の観点で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにししてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の観点で書いてください	Ⅰ	部位及び主要所見	手術年月日	平成 昭和 年 月 日
	Ⅱ	主要所見		
(15) 死因の種類	① 死及び自然死	不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11 その他及び不詳の外因		
	② 外因死	12 不詳の死		
(16) 外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村
	◆伝票又は確定情報の場合でも書いてください	手段及び状況		

正解

研究グループ

このe-ラーニングの作成は
平成28-29年度厚生労働科学研究費補助金
(統計情報総合 研究事業)
「適切な原死因記載のための教育コンテンツの開発」
により行われた。

研究代表者

木下博之 香川大学医学部人間社会環境医学講座・法医学 教授

研究分担者

池松 和哉 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・法医学分野 教授

横田順一郎 独立行政法人堺市立病院機構 副理事長

加藤 稲子 三重大学大学院周産期発達障害予防学講座・小児科学 教授

鷲見 幸彦 国立長寿医療研究センター・神経内科 副院長

横井 英人 香川大学医学部附属病院・医療情報部 教授

宮武 伸行 香川大学医学部人間社会環境医学講座・衛生学 准教授

